

---

2018年度 第2四半期決算及び  
2018年度 業績見通し  
説明資料

---

帝人株式会社  
2018年11月5日

1. 2018年度 第2四半期決算の概要 P. 2
2. 2018年度 業績見通しの概要 P.14
3. 参考資料 P.24

---

#### 見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2018年11月5日午前11時30分に公表した弊社四半期決算に基づくものです。

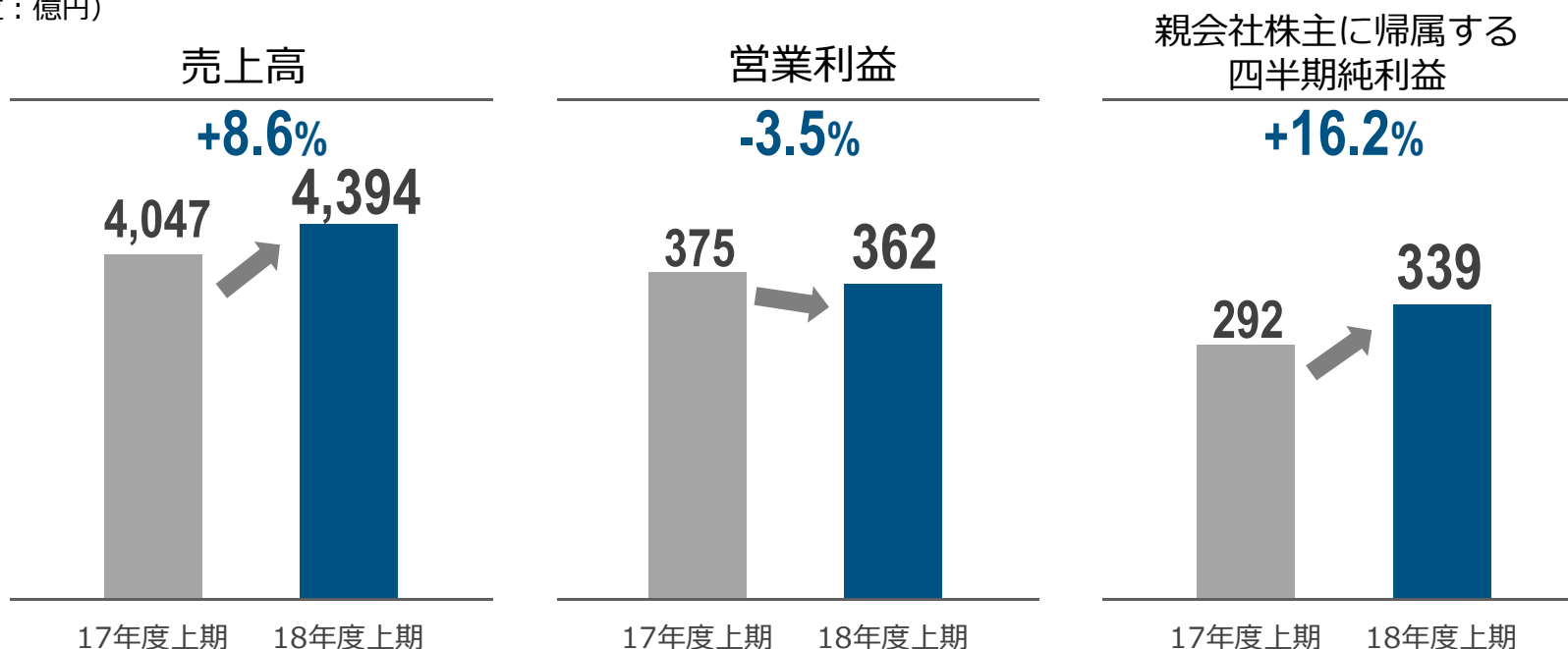
---

# 1. 2018年度 第2四半期決算の概要

上期決算ハイライト

・ 上期の純利益としては過去最高益

(単位：億円)



- ・ マテリアル、ヘルスケアともに販売堅調で売上増
- ・ 原燃料価格高やCSP社\*新規受注に伴う一時費用増が営業利益の押し下げ要因
- ・ 営業外収益、特別利益の増加もあり純利益増益

\* 米国子会社のコンチネタル・ストラクチャル・プラスチック社（以下CSP）

(億円)

## ◆ 経営成績

	17年度 上期	18年度 上期	差異	増減率
売上高	4,047	4,394	+348	+8.6%
営業利益	375	362	-13	-3.5%
営業外損益	4	36	+32	+813.0%
経常利益	379	398	+18	+4.9%
特別損益	47	36	-11	-23.1%
税金等調整前 四半期純利益	426	433	+8	+1.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	292	339	+47	+16.2%

ROE *1	16.2%	16.7%	+0.6%
営業利益ROIC *2	11.9%	10.8%	-1.1%
EBITDA *3	601	596	-5

	17年度 上期	18年度 上期	差異	増減率
設備投資 *4	177	259	+81	+45.9%
減価償却費	226	234	+8	+3.7%
研究開発費	176	167	-9	-5.1%

\*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*1, \*2は年換算後の数値

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む

## ◇ P L 換算レート

	17年度 上期	18年度 上期	差異
円/米ドル	111	110	-1
円/ユーロ	126	130	+4
米ドル/ユーロ	1.14	1.18	+0.04

(億円)

◆ 営業外損益	17年度 上期	18年度 上期	差異	◆ 特別損益	17年度 上期	18年度 上期	差異
受取利息	5	5	+0	固定資産売却益	55	3	-52
受取配当金	12	13	+1	投資有価証券売却益	4	36	+32
デリバティブ評価益	3	43	+40	受取和解金	—	45	+45
持分法による投資利益	8	14	+5	その他	1	2	+1
雑収入	6	6	+0	特別利益 計	60	85	+26
営業外収益 計	35	81	+46	固定資産除売却損	7	9	+2
支払利息	13	17	+4	減損損失	2	39	+38
為替差損	11	18	+7	その他	4	1	-3
雑損失	7	10	+3	特別損失 計	13	50	+36
営業外費用 計	31	46	+15	特別損益 計	47	36	-11
営業外損益 計	4	36	+32				

◆ 財政状態

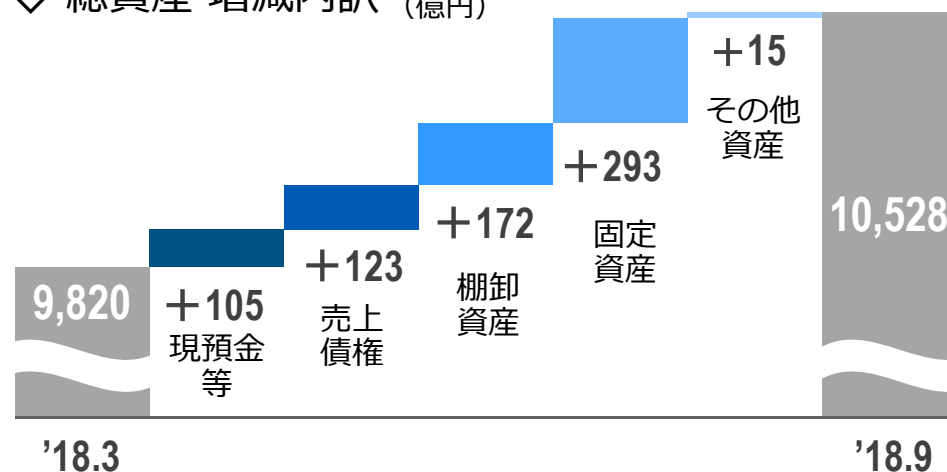
(億円)	18年 3月末*	18年 9月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,820	10,528	+708	+98
負債	5,737	6,193	+455	+48
(内 有利子負債)	3,442	4,007	+565	+41
純資産	4,082	4,335	+253	+50
D/Eレシオ	0.88	0.96	+0.08	—

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	17年度 上期	18年度 上期	差異
営業活動	258	339	+81
投資活動	-209	-423	-214
フリー・キャッシュ・フロー	49	-84	-133
財務活動他	-356	199	+555
現金及び 現金同等物増減	-307	115	+422

\* 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を18年3月末に遡って反映

◇ 総資産 増減内訳 (億円)

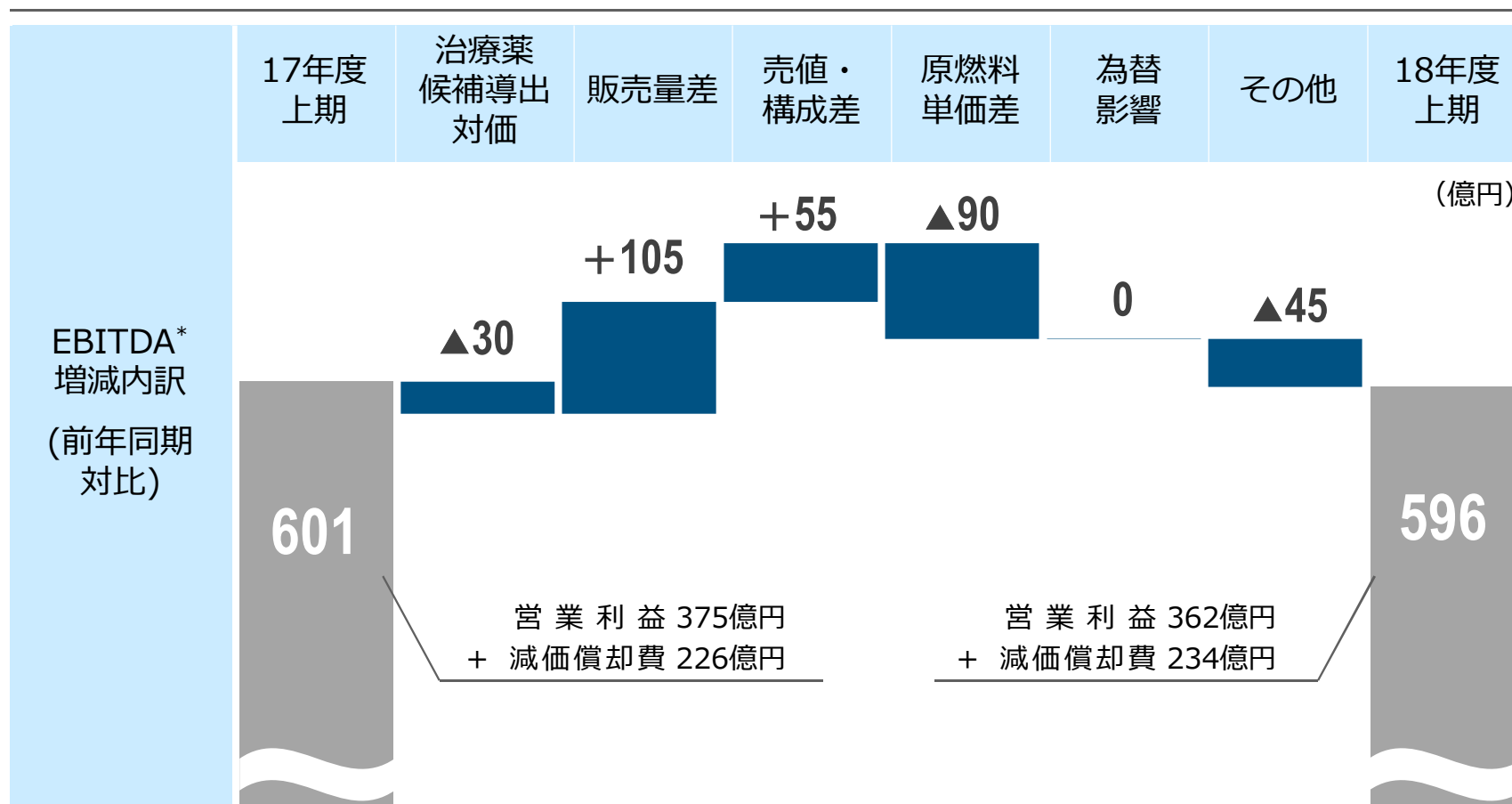


◇ BS換算レート

	18年 3月末	18年 9月末	差異
円/米ドル	106	114	+7
円/ユーロ	131	132	+2
米ドル/ユーロ	1.23	1.16	-0.07

◆ EBITDA\*増減内訳 (前年同期対比)

・原燃料価格高影響を価格転嫁や販売構成改善でカバー

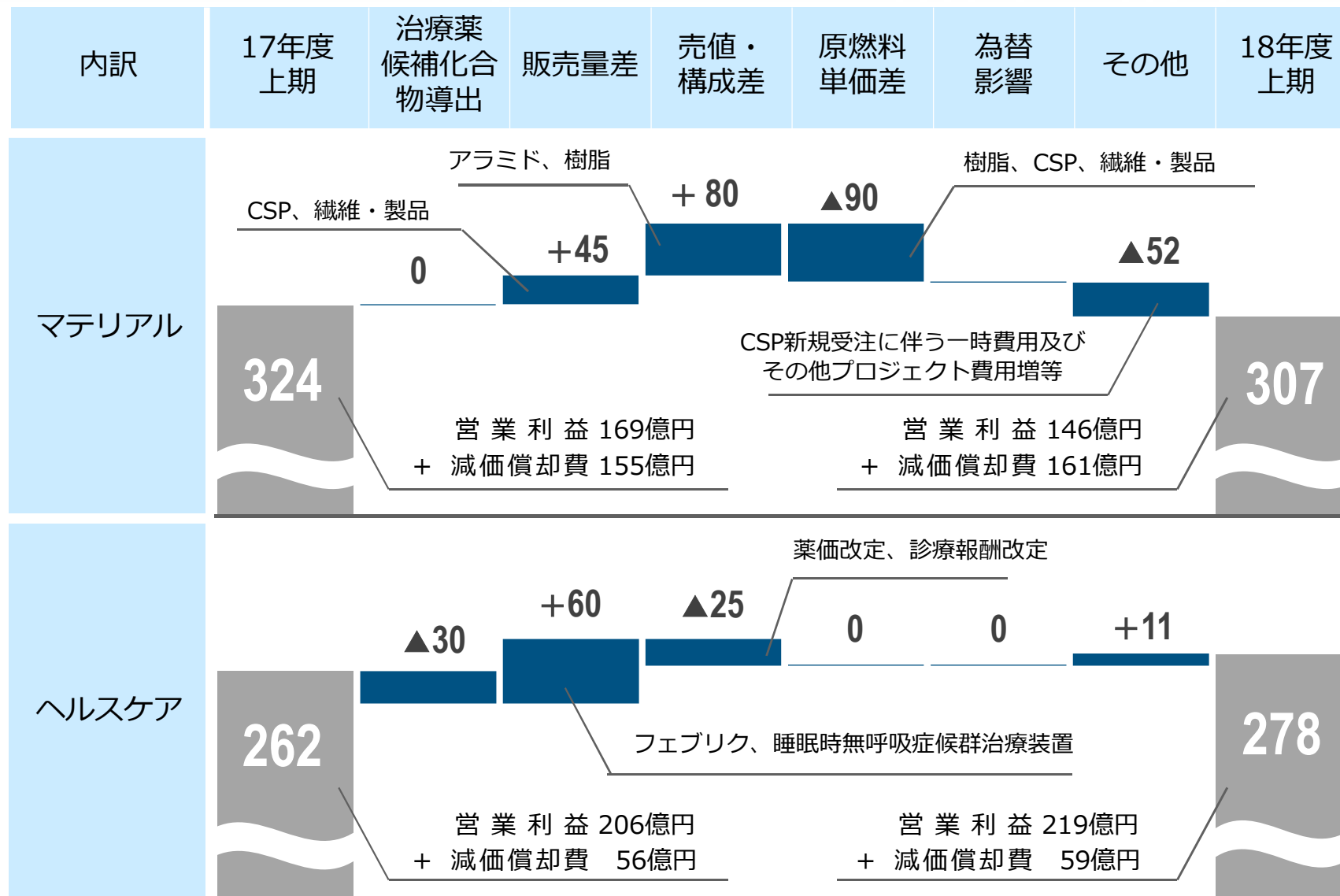


\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出



◆ セグメント別 EBITDA\*増減内訳 (前年同期対比)

(億円)



\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

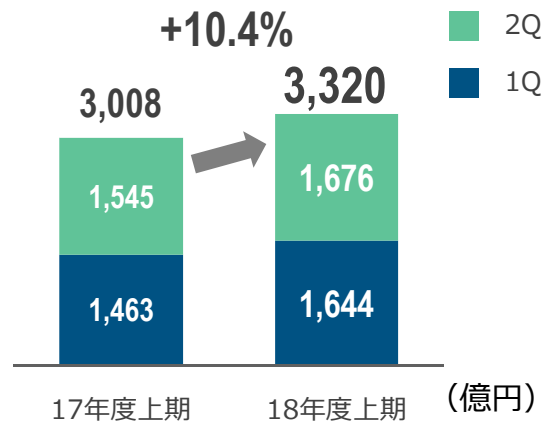
## ◆ セグメント別 売上高・営業利益比較（前年同期対比）

		(億円)	17年上期	18年上期	差異	増減率
売上高	マテリアル事業		1,234	1,344	+110	+8.9%
	繊維・製品事業		1,401	1,540	+139	+9.9%
	複合成形材料事業ほか		374	436	+62	+16.6%
	マテリアル 計		3,008	3,320	+311	+10.4%
	ヘルスケア		780	804	+24	+3.1%
	その他		258	270	+12	+4.6%
	<b>合計</b>		<b>4,047</b>	<b>4,394</b>	<b>+348</b>	<b>+8.6%</b>
営業利益	マテリアル		169	146	-23	-13.8%
	ヘルスケア		206	219	+12	+6.0%
	その他		29	26	-4	-12.9%
	消去又は全社		-29	-28	+1	—
	<b>合計</b>		<b>375</b>	<b>362</b>	<b>-13</b>	<b>-3.5%</b>

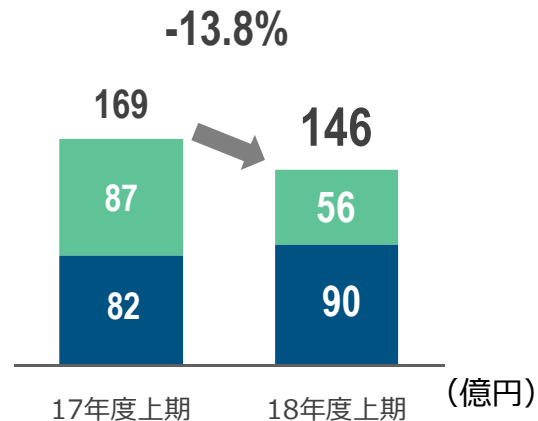
## マテリアル

- ・各事業の販売堅調で増収
- ・原燃料価格高やCSPの一時費用増等で減益

### 売上高



### 営業利益



### マテリアル事業

- アラミド繊維の販売は自動車関連向けを中心に堅調
- 炭素繊維は北米新工場立上げ費用等が利益押し下げ
- P C樹脂の販売構成が改善
- フィルムの工程用離型用途が好調

### 繊維・製品事業

- 衣料繊維は販売好調も原燃料価格上昇影響有り
- 産業資材は寝装用途が好調も土木資材用途が低調

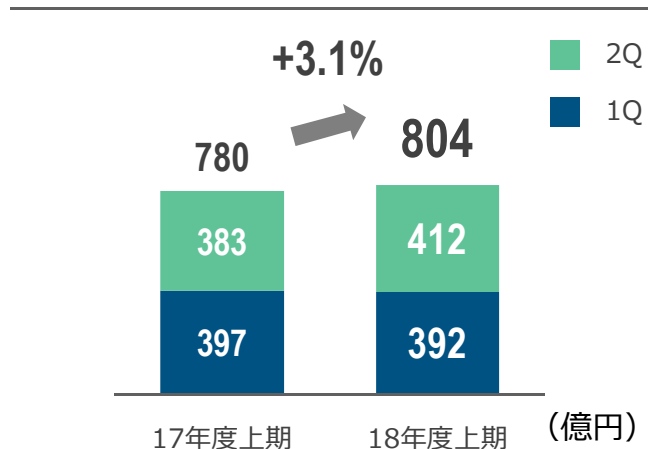
### 複合成形材料事業ほか

- CSPの自動車向け量産部品の販売が順調に拡大も、原料価格の上昇及び新規受注に伴う一時費用増
- リチウムイオンバッテリー用セパレータの民生用途の販売が低調

## ヘルスケア

・主力製品・サービスの販売増で増収・増益

### 売上高



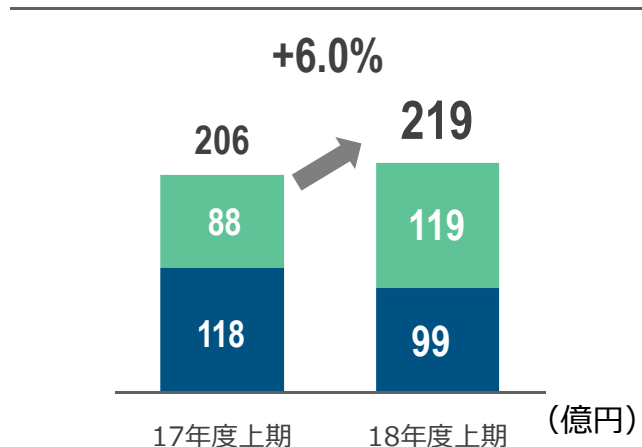
### 医薬品分野

- 前期に計上した治療薬候補化合物の導出対価（30億円）がなくなり、長期収載品の厳しい環境が続くも、高尿酸血症・痛風治療剤フェブリクの販売拡大でカバー

### 在宅医療分野

- HOT用酸素濃縮装置は携帯型製品の品揃え充実も貢献し、高水準のレンタル台数を維持
- 睡眠時無呼吸症候群治療装置（CPAP）は睡眠評価装置「SAS-2100」の活用等でレンタル台数が伸長

### 営業利益



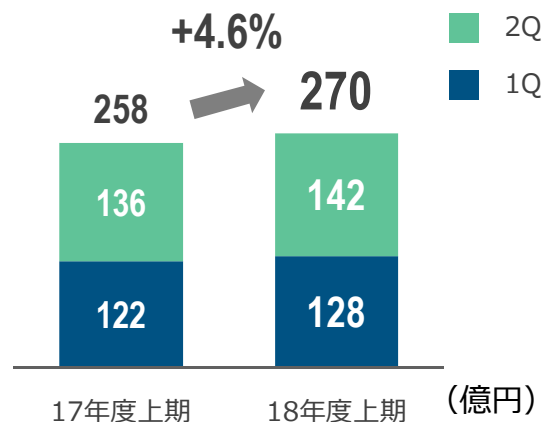
### 新規ヘルスケア分野

- 埋め込み型医療機器において人工関節や脊椎領域製品を中心に順調に推移

その他

・ IT事業が堅調に推移

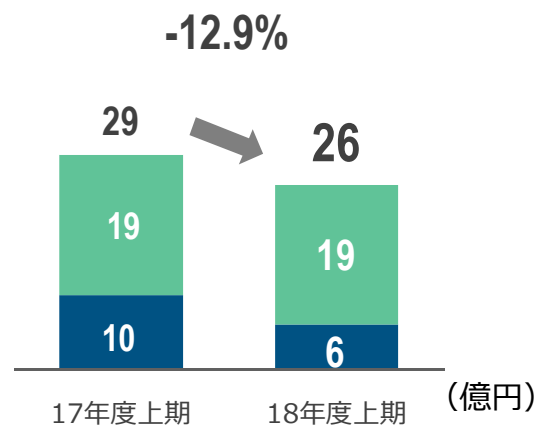
売上高



IT事業

- 電子コミック配信サービス「めちゃコミック」の売上が順調に拡大
- ITサービス分野では、病院向けサービスが堅調に推移し、介護業界向け転職サイトを開始

営業利益



財務トピックス

株主還元と保有株式の売却

**1. 配当**

2018年度 70円/株 (変更なし)

- ・内訳  
上期：30円/株  
下期：40円/株 (100周年記念  
配当10円を含む)
- ・配当性向  
目安は連結配当性向30%  
当期は約28%となる見通し

**2. 自己株式取得**

2018年8月2日に実行

- ・取得内容  
当社普通株式  
9,107,400株  
(自己株式を除く発行済み株式総数  
に対する割合：約5%)  
約200億円
- ・資本効率の向上と株主還元の  
充実を企図した機動的な資本  
政策の遂行

**3. 保有株式の売却**

保有意義が希薄化した株式を売却

- ・当半期の主な売却  
キョーリン製薬HD：全売却  
(売却金額：約353億円)  
その他事業会社：一部売却  
(約25億円)  
金融機関：一部売却  
(約40億円：退給信含む)

## 2. 2018年度 業績見通しの概要

業績指標推移

- ・ ROE 10%以上という中期目標を達成継続
- ・ EBITDA 2019年度目標（1,200億円超）達成は視野内
- ・ EBITDA 2018年度見通しは1,120億円

ROE\*1

EBITDA\*2

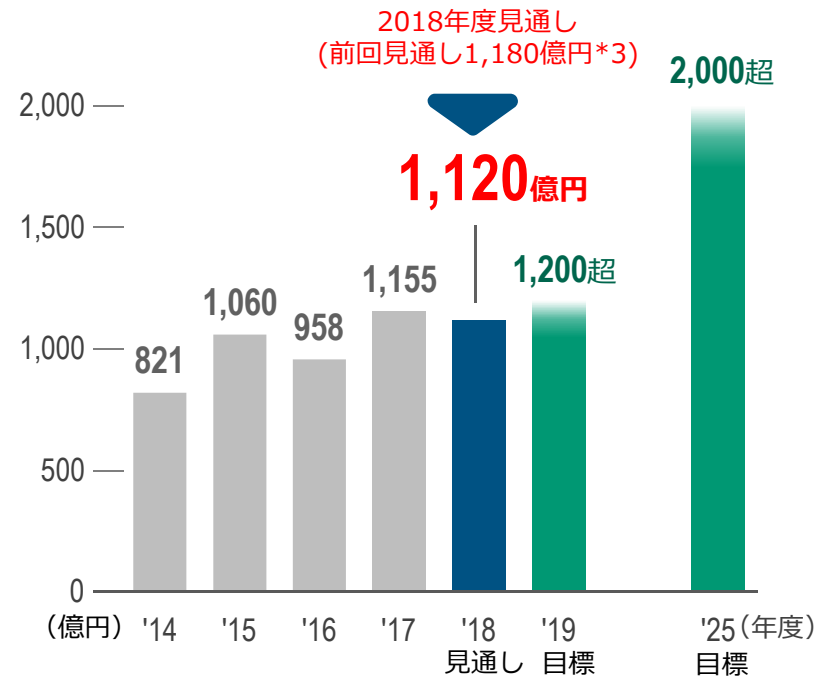
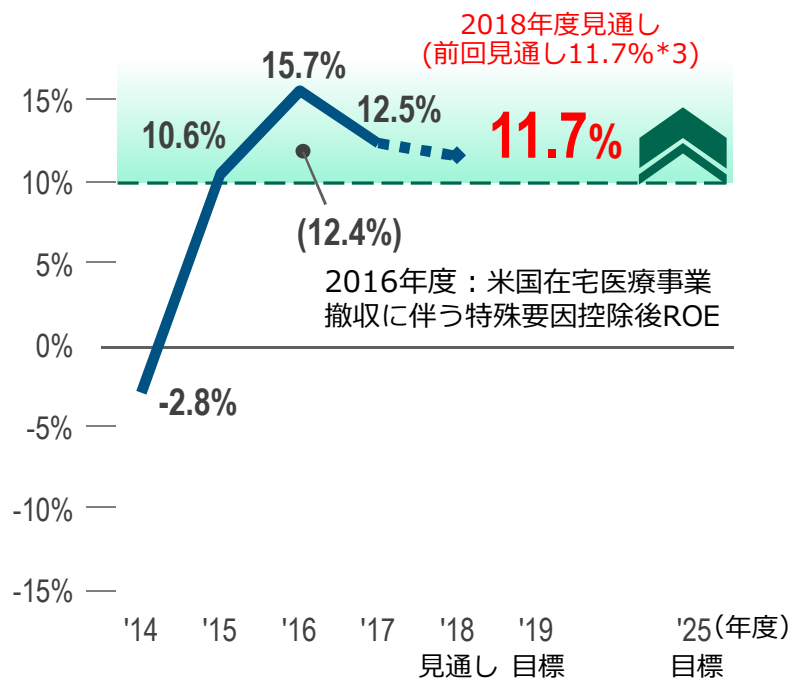
中期  
目標

10%以上

2019年度 1,200億円超

2025年度 2,000億円超

推移



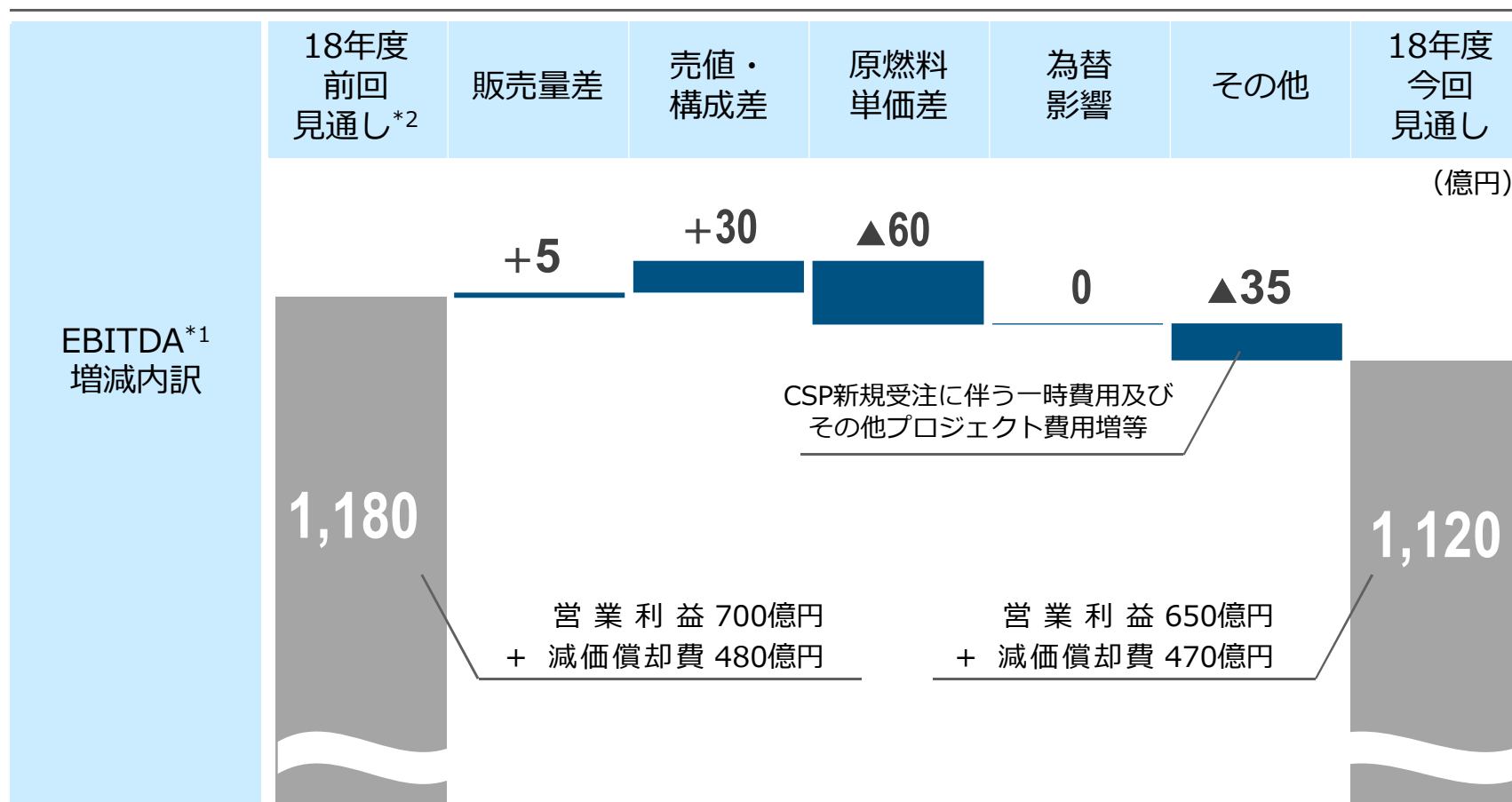
\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出  
 \*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*3 前回見通しは2018年8月1日公表



◆ EBITDA\*1増減内訳 (前回見通し\*2対比)

・ 原燃料価格高影響等を売値・構成差改善で軽減を図る

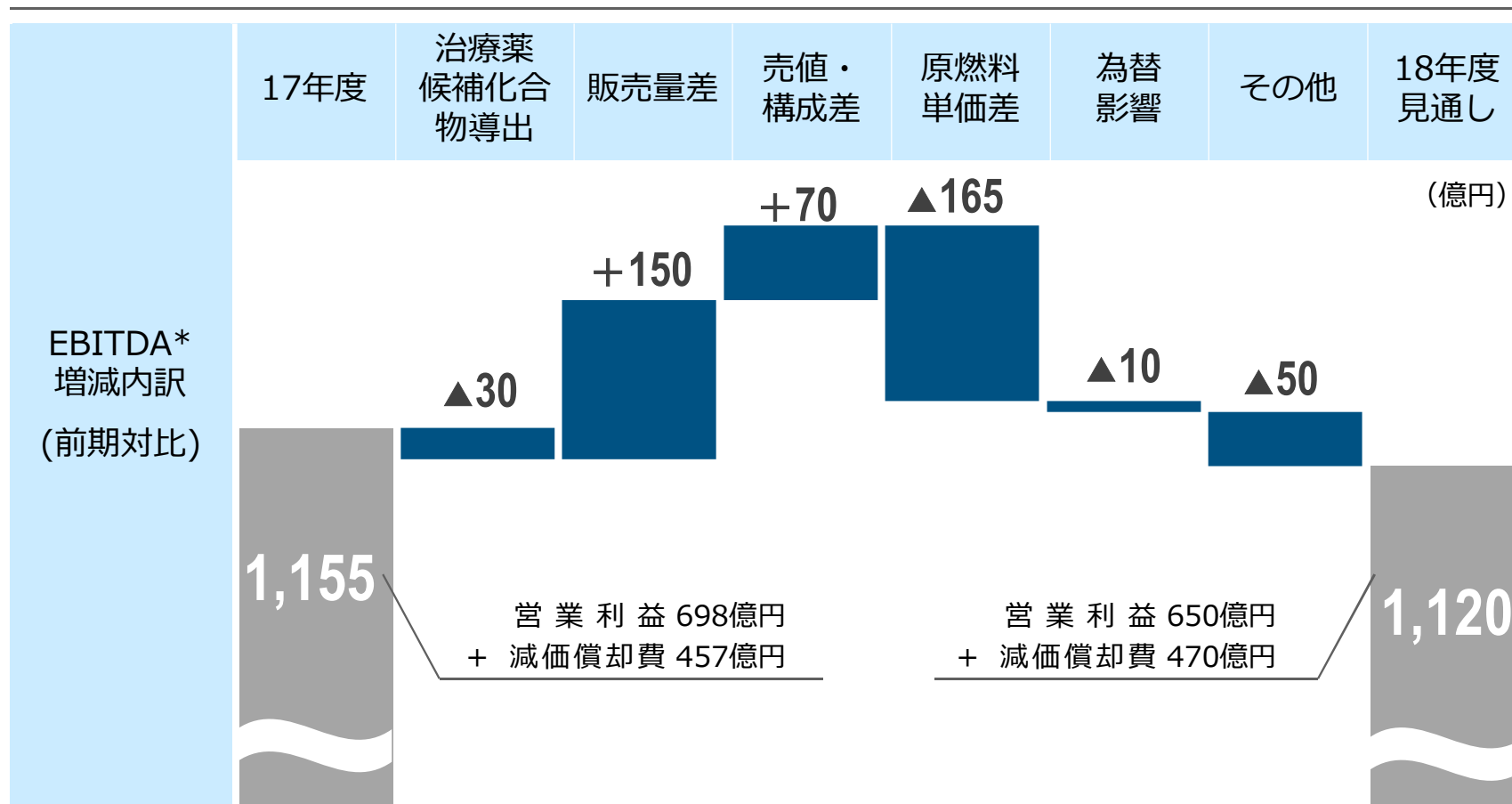


\*1 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

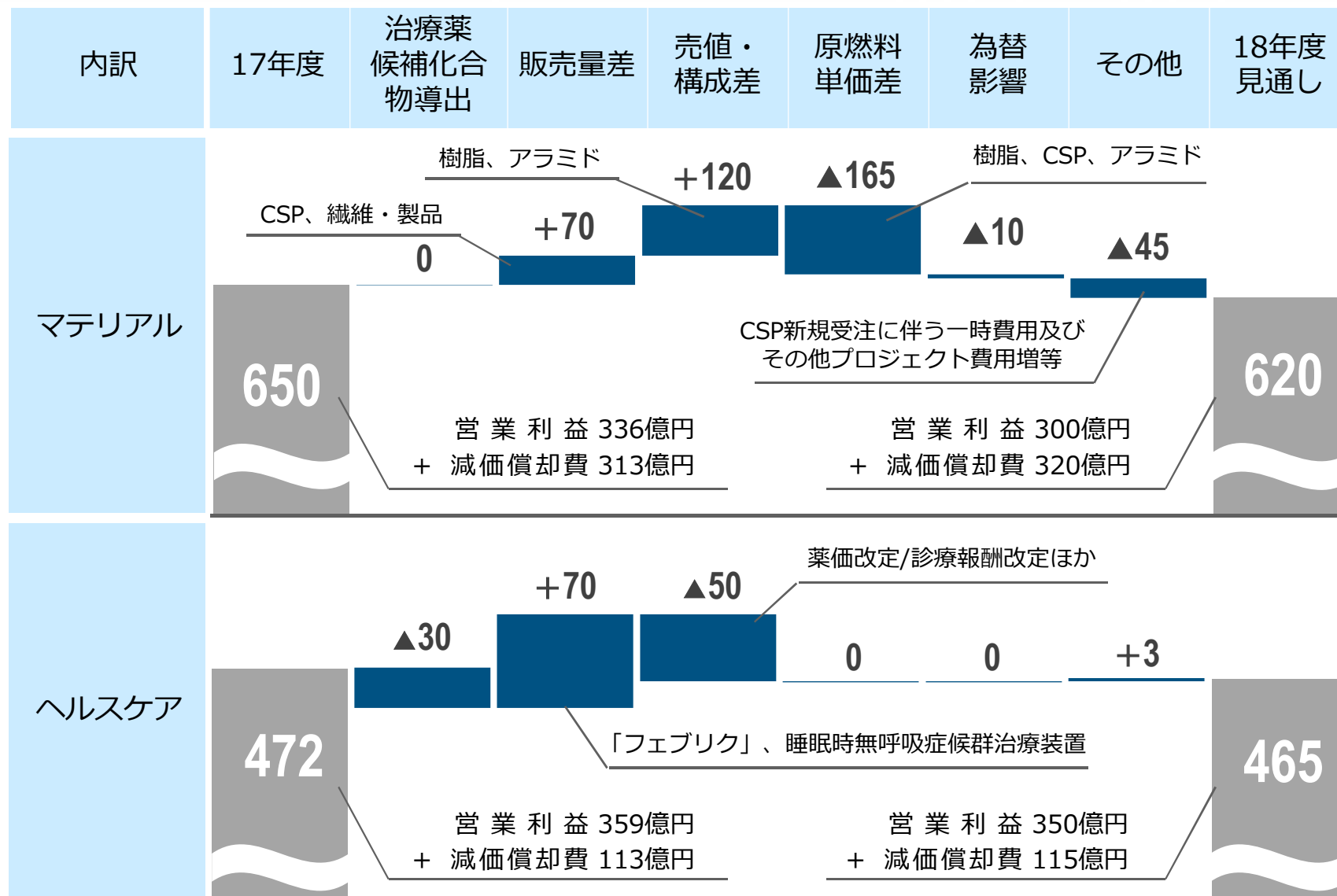
\*2 前回見通しは2018年8月1日公表

◆ EBITDA\*増減内訳 (前期対比)

・ 原燃料価格高影響を価格転嫁や販売構成改善でカバー



◆ セグメント別 EBITDA\*増減内訳 (前期対比) (億円)



\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

通期見通し

・ マテリアル・ヘルスケアとも販売堅調だが、原燃料価格高等の影響有り

(単位：億円)

売上高

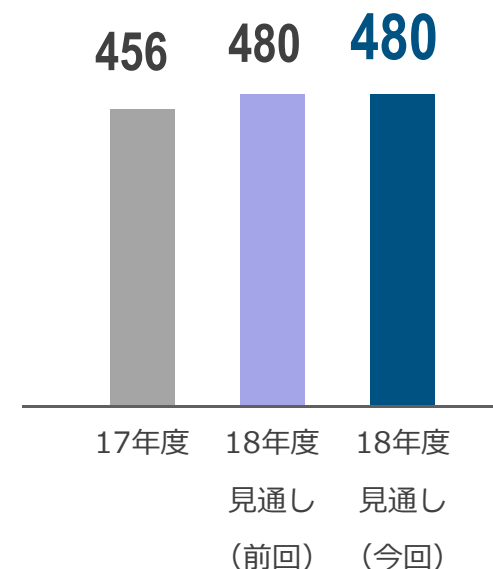
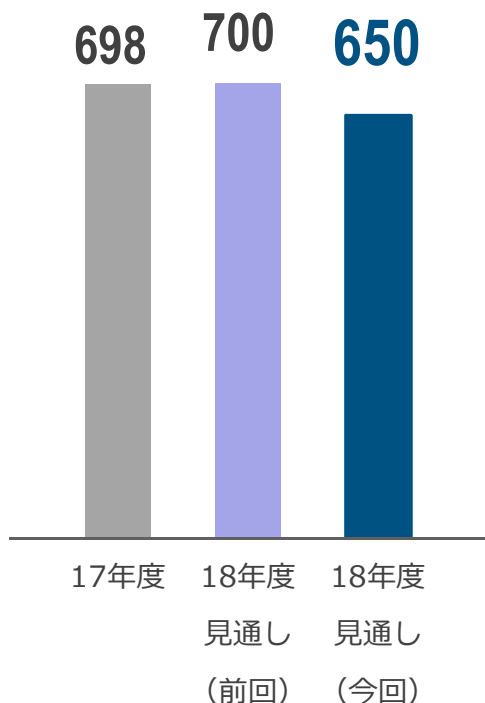
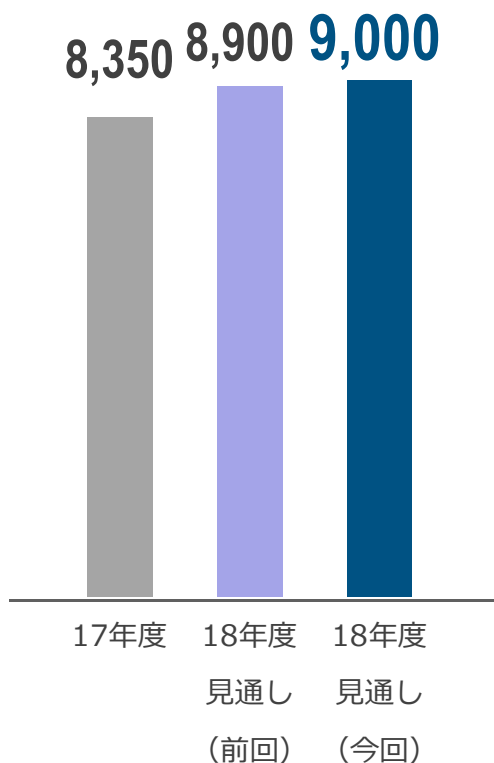
営業利益

親会社株主に帰属する  
当期純利益

(対前回見通し) + 100億円

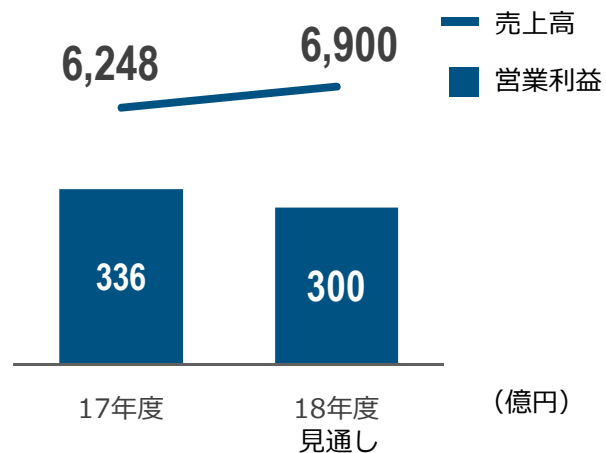
▲ 50億円

据え置き



セグメント別業績見通し  
対前期

マテリアル



増収・減益

CSPをはじめ販売は順調だが、原燃料価格高の影響やCSP新規受注に伴う一時費用増等で減益

ヘルスケア



売上前期並み・微減益

国内・海外とも市場販売は堅調。薬価改定影響、前期に計上した導出対価（30億円）をカバー

フェブリク

- 国内再審査期間の2年間延長（2021年1月まで）が決定\*
- \*国内は2022年度前半まで後発品の参入は想定されない
- 中国では、2018年9月に許認可を取得

自動車向け複合成形部品の拡大

- ・ 米国CSPの売上高は順調に拡大、欧州展開も推進

- ✓ 米国CSPの売上高は順調に拡大

2018年初頭発売の米 FCA 社新型 Jeep向け  
ガラス繊維複合材料の販売が拡大

- ✓ 世界で初めて、自動車向け熱可塑性炭素繊維複合材料  
部品の量産車への採用が決定 (2019 GMC Sierra Denali)
- ✓ 2018年7月、CSP研究開発拠点の CSP Europe  
での製造ライン設置を決定
- ✓ 2018年8月、欧州で自動車向け複合成形部品を展  
開する Inapal 社 (ポルトガル) を買収



米FCA社 Jeep



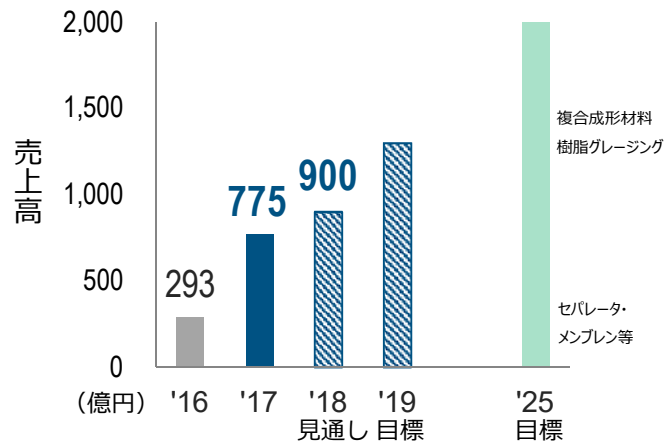
Inapal社 パルメラ工場

自動車産業の Tier1 ポジションを活かし、最終顧客のニーズをとらえてマルチマテリアルの複合成形部品で製品バリエーションの拡大と地域/顧客拡大を進め、2030年頃に自動車向け複合成形部品で売上 \$2,000MM 達成を目指す

## 発展戦略の目標と進捗

- ・ マテリアルは自動車向け複合材料の欧州拠点を確保
- ・ ヘルスケアは製品・サービスのラインナップ拡充を継続

### マテリアル 発展戦略



#### ポルトガルの自動車向け複合材料成形メーカーInapal Plasticos社を完全子会社化

CSP Europe社へのGF-SMC製造設備設置の決定に引き続き、欧州の自動車メーカーに幅広い採用実績を持つInapal社の買収を完了

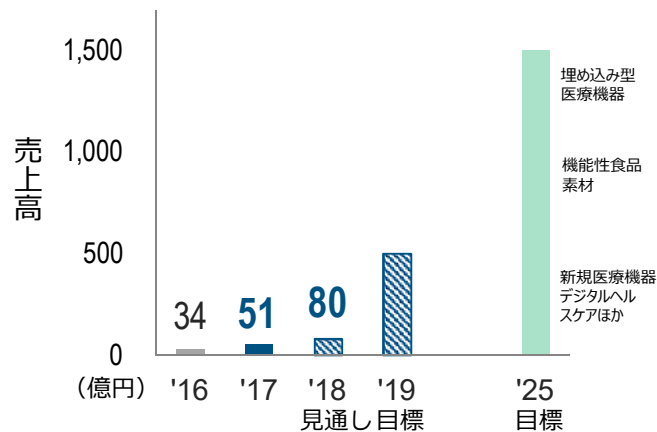


Inapal社 パルメラ工場

#### 【Inapal社の概要】

- ・ 社名：Inapal Plasticos SA
- ・ 売上高：31.9百万ユーロ（2017年度実績）
- ・ 従業員数：約330名
- ・ 事業内容：自動車向け複合材料・部品の設計・成形・加工

### ヘルスケア 発展戦略



#### 棚管理システム「Recopick」のビジネス拡大に向けた開発進捗

医療分野では、聖路加国際病院等に導入され、院内の余剰医療機器の削減、搬送時間や管理工数の大幅な削減を実現し、第20回自動認識システム大賞では、「フジサンケイビジネスアイ賞」を受賞



小売分野でも  
(株)ローソンと連携し、冷蔵ショーケースにある商品詳細を効率かつ、リアルタイムに管理できるシステムを開発

「Recopick」：大量のICタグを一括に読み取る性能に長けたUHF帯による、管理対象物の出入庫やロケーションを効率的に管理するRFIDシステム

CEATEC JAPAN 2018 ローソンブースにて展示

## ◆ 業績見通しまとめ

(億円)	17年度 実績	18年度 見通し	差異	増減率	18年度 前回見通し*5	前回見通し との差異
売上高	8,350	9,000	+650	+7.8%	8,900	+100
営業利益	698	650	-48	-6.9%	700	-50
経常利益	678	670	-8	-1.2%	720	-50
親会社株主に帰属する 当期純利益	456	480	+24	+5.4%	480	0
ROE *1	12.5%	11.7%	-0.8%		11.7%	0.0%
営業利益ROIC *2	11.2%	10.0%	-1.2%		10.3%	-0.4%
EBITDA*3	1,155	1,120	-35		1,180	-60
フリー・キャッシュ・フロー	288	150	-138		150	0
設備投資額*4	446	750	+304		750	0
減価償却費	457	470	+13		480	-10
研究開発費	359	370	+11		370	0

## 2018年度下期見通し 前提条件

為替レート 米ドル=110円、ユーロ=130円  
原油価格(Dubai) 75米ドル/バレル

## 2018年度 配当金見通し (前回見通し\*5から変更なし)

中間 30円/株 期末 40円/株 年間 70円/株  
(100周年記念配当10円/株を含む)

## 自己株式の取得を実施 (約200億円、8月)

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本\*」にて算出 \* 純資産+有利子負債-現金及び預金

\*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む

\*5 前回見通しは2018年8月1日公表



### 3. 参考資料

## ◆ セグメント別 経営指標

		17年度	18年度	差異	18年度	差異
		実績	今回見通し	前期対比	前回見通し*1	今回ー前回
EBITDA*2 (億円)						
	マテリアル	650	620	-30	690	-70
	ヘルスケア	472	465	-7	460	+5
	その他	78	85	+7	80	+5
	消去又は全社	-45	-50	-5	-50	0
	<b>合計</b>	<b>1,155</b>	<b>1,120</b>	<b>-35</b>	<b>1,180</b>	<b>-60</b>
営業利益ROIC*3 (%)						
	マテリアル	9%	7%	-2%	8%	-1%
	ヘルスケア	29%	30%	+1%	24%	+6%
	<b>合計</b>	<b>11%</b>	<b>10%</b>	<b>-1%</b>	<b>10%</b>	<b>-0%</b>

\*1 前回見通しは2018年8月1日公表

\*2 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

\*3 「営業利益÷投下資本\*」にて算出 \*投下資本 = 純資産+有利子負債-現金及び預金

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前期対比）

	(億円)	17年度実績			18年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
売上高								
マテリアル事業		1,234	1,307	2,541	1,344	1,406	2,750	+209
繊維・製品事業		1,401	1,531	2,932	1,540	1,710	3,250	+318
複合成形材料事業ほか		374	402	775	436	464	900	+125
マテリアル 計		3,008	3,240	6,248	3,320	3,580	6,900	+652
ヘルスケア		780	774	1,554	804	746	1,550	-4
その他		258	290	548	270	280	550	+2
<b>合計</b>		<b>4,047</b>	<b>4,303</b>	<b>8,350</b>	<b>4,394</b>	<b>4,606</b>	<b>9,000</b>	<b>+650</b>
営業利益								
マテリアル		169	167	336	146	154	300	-36
ヘルスケア		206	153	359	219	131	350	-9
その他		29	32	61	26	39	65	+4
消去又は全社		-29	-30	-59	-28	-37	-65	-6
<b>合計</b>		<b>375</b>	<b>323</b>	<b>698</b>	<b>362</b>	<b>288</b>	<b>650</b>	<b>-48</b>

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前回見通し\*対比）

		18年度 前回見通し*			18年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
		(億円)						
売上高	マテリアル事業	1,350	1,400	2,750	1,344	1,406	2,750	0
	繊維・製品事業	1,550	1,650	3,200	1,540	1,710	3,250	+50
	複合成形材料事業ほか	400	450	850	436	464	900	+50
	マテリアル 計	3,300	3,500	6,800	3,320	3,580	6,900	+100
	ヘルスケア	800	750	1,550	804	746	1,550	0
	その他	250	300	550	270	280	550	0
<b>合計</b>		<b>4,350</b>	<b>4,550</b>	<b>8,900</b>	<b>4,394</b>	<b>4,606</b>	<b>9,000</b>	<b>+100</b>
営業利益	マテリアル	170	195	365	146	154	300	-65
	ヘルスケア	185	155	340	219	131	350	+10
	その他	25	35	60	26	39	65	+5
	消去又は全社	-30	-35	-65	-28	-37	-65	0
	<b>合計</b>	<b>350</b>	<b>350</b>	<b>700</b>	<b>362</b>	<b>288</b>	<b>650</b>	<b>-50</b>

\* 前回見通しは2018年8月1日公表

## ◆ 主要経営指標推移

	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績*6	18年度 見通し
ROE*1	-2.8%	10.6%	15.7%	12.5%	11.7%
営業利益ROIC *2	7.1%	12.7%	10.0%	11.2%	10.0%
EBITDA (億円) *3	821	1,060	958	1,155	1,120
1株当たり当期純利益 (円) *4	-41.1	158.1	254.9	231.3	244.7
1株当たり配当金 (円) *4	20	35	55	60	70
総資産 (億円)	8,237	8,234	9,641	9,820	10,500
有利子負債 (億円)	3,082	3,033	3,762	3,442	3,700
D/Eレシオ *5	1.07	1.01	1.11	0.88	0.9
自己資本比率	34.9%	36.4%	35.1%	40.0%	41.0%

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本\*」にて算出

\*純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

\*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

## ◆ 連結貸借対照表

(億円)	16年度		17年度				18年度	
	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末*	6月末	9月末
<b>資産</b>								
流動資産	5,096	4,668	4,736	4,595	4,755	4,779	5,205	5,465
固定資産	3,962	4,973	4,987	4,943	5,031	5,041	5,076	5,063
<b>合計</b>	<b>9,058</b>	<b>9,641</b>	<b>9,723</b>	<b>9,538</b>	<b>9,786</b>	<b>9,820</b>	<b>10,281</b>	<b>10,528</b>
<b>負債・純資産</b>								
負債	5,515	6,122	5,966	5,560	5,673	5,737	6,047	6,193
(内 有利子負債)	3,437	3,762	3,862	3,411	3,475	3,442	3,852	4,007
純資産	3,543	3,518	3,757	3,978	4,113	4,082	4,234	4,335
<b>合計</b>	<b>9,058</b>	<b>9,641</b>	<b>9,723</b>	<b>9,538</b>	<b>9,786</b>	<b>9,820</b>	<b>10,281</b>	<b>10,528</b>

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、2017年度末（2018年3月末）については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

## ◆ 連結損益計算書

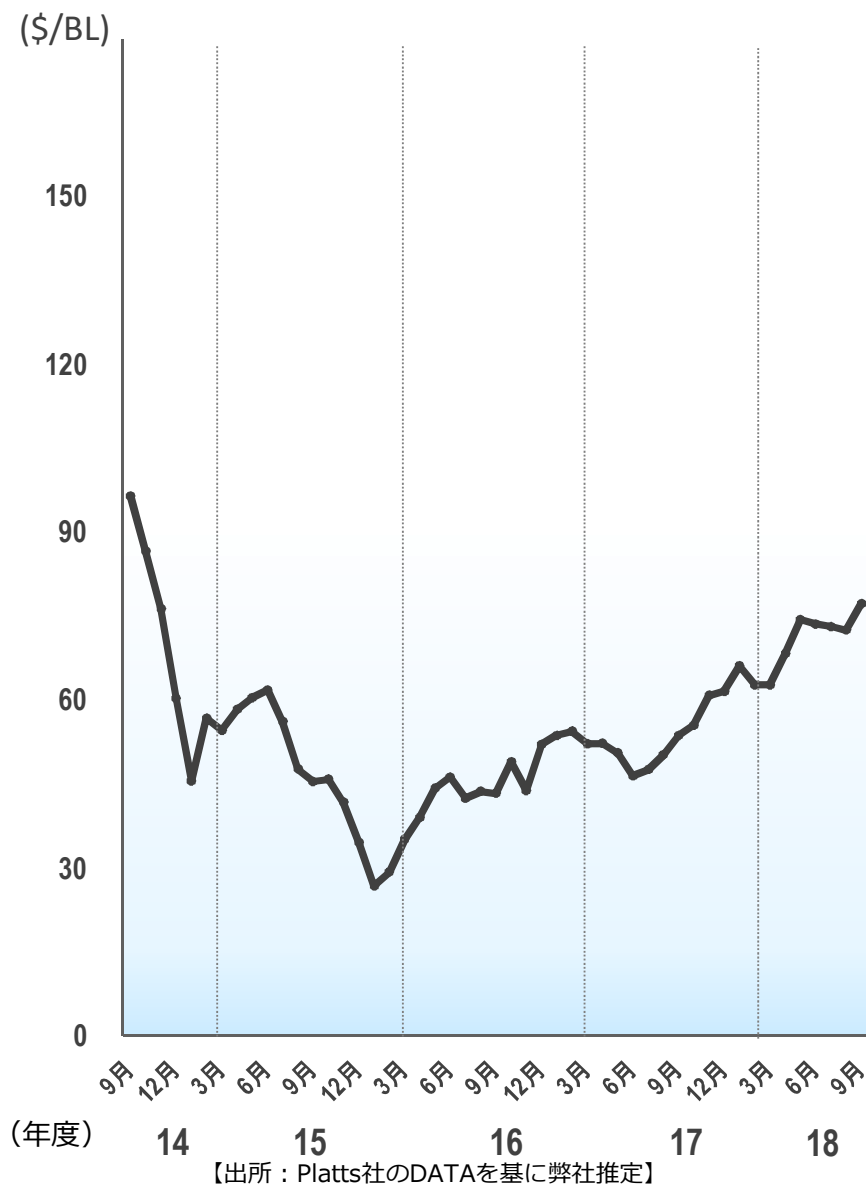
(億円)	17年度				18年度		差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	18/2Q-17/2Q
<b>売上高</b>	<b>1,982</b>	<b>2,064</b>	<b>2,100</b>	<b>2,203</b>	<b>2,164</b>	<b>2,230</b>	<b>+166</b>
売上原価	1,313	1,398	1,428	1,518	1,477	1,556	+159
<b>売上総利益</b>	<b>669</b>	<b>666</b>	<b>672</b>	<b>685</b>	<b>687</b>	<b>674</b>	<b>+8</b>
販管費	478	483	485	549	505	494	+12
<b>営業利益</b>	<b>191</b>	<b>184</b>	<b>188</b>	<b>135</b>	<b>183</b>	<b>179</b>	<b>-4</b>
営業外損益	9	-5	1	-25	29	6	+11
(内 金融収支)	7	-4	3	-3	6	-6	-2
(内 持分法投資損益)	3	5	1	3	3	11	+6
<b>経常利益</b>	<b>200</b>	<b>179</b>	<b>189</b>	<b>110</b>	<b>212</b>	<b>186</b>	<b>+7</b>
特別損益	-5	51	-13	-33	49	-13	-65
<b>税金等調整前 四半期純利益</b>	<b>196</b>	<b>230</b>	<b>176</b>	<b>77</b>	<b>261</b>	<b>173</b>	<b>-58</b>
法人税等	60	64	68	16	64	24	-41
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2	8	3	3	2	5	-4
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	<b>134</b>	<b>158</b>	<b>105</b>	<b>58</b>	<b>195</b>	<b>144</b>	<b>-14</b>

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

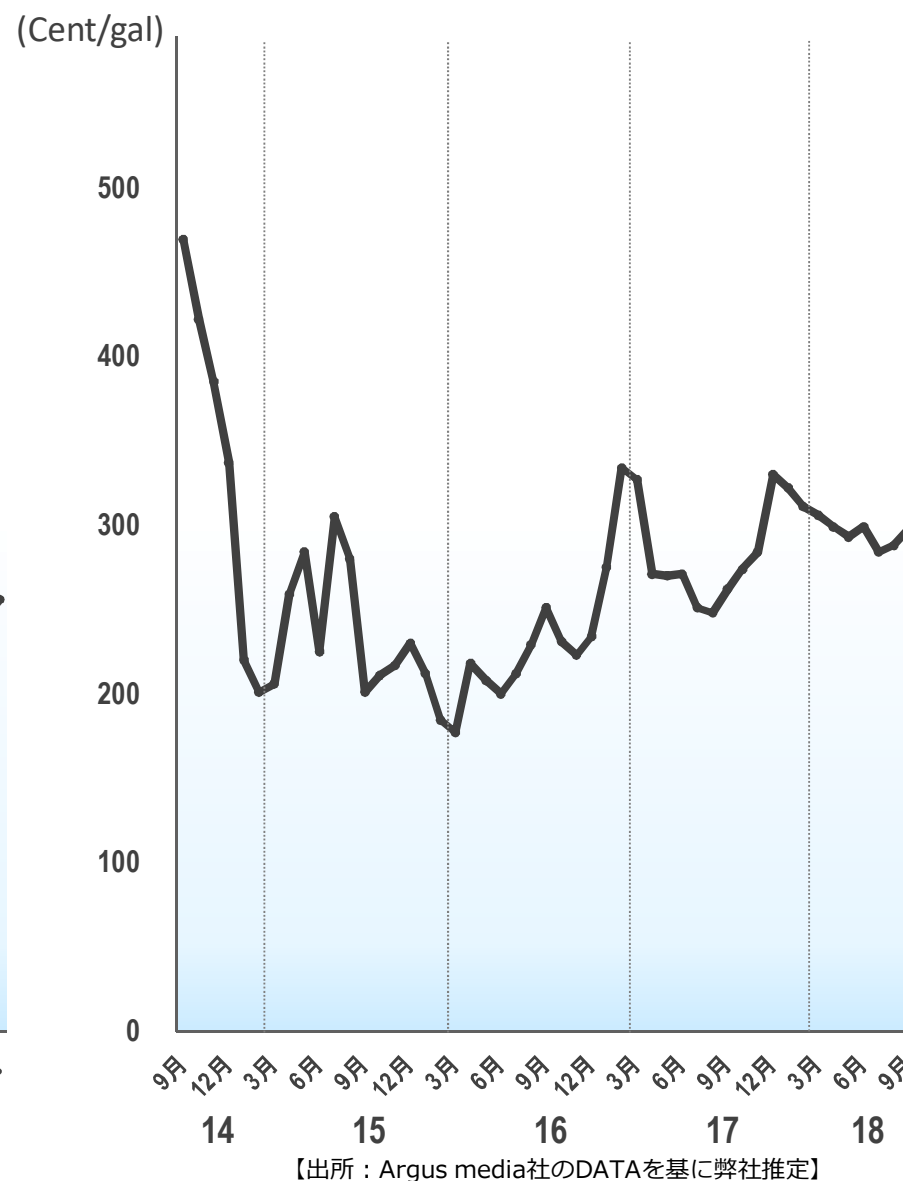
		17年度				18年度		差異
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	18/2Q-17/2Q
		(億円)						
売上高	マテリアル事業	604	630	632	675	687	657	+27
	繊維・製品事業	664	737	755	776	738	803	+66
	複合成形材料事業ほか	194	179	174	227	219	217	+38
	マテリアル 計	1,463	1,545	1,561	1,678	1,644	1,676	+131
	ヘルスケア	397	383	408	365	392	412	+30
	その他	122	136	130	159	128	142	+6
	<b>合計</b>	<b>1,982</b>	<b>2,064</b>	<b>2,100</b>	<b>2,203</b>	<b>2,164</b>	<b>2,230</b>	<b>+166</b>
営業利益	マテリアル	82	87	73	94	90	56	-32
	ヘルスケア	118	88	115	38	99	119	+31
	その他	10	19	12	20	6	19	+0
	消去又は全社	-19	-11	-12	-17	-13	-15	-4
	<b>合計</b>	<b>191</b>	<b>184</b>	<b>188</b>	<b>135</b>	<b>183</b>	<b>179</b>	<b>-4</b>



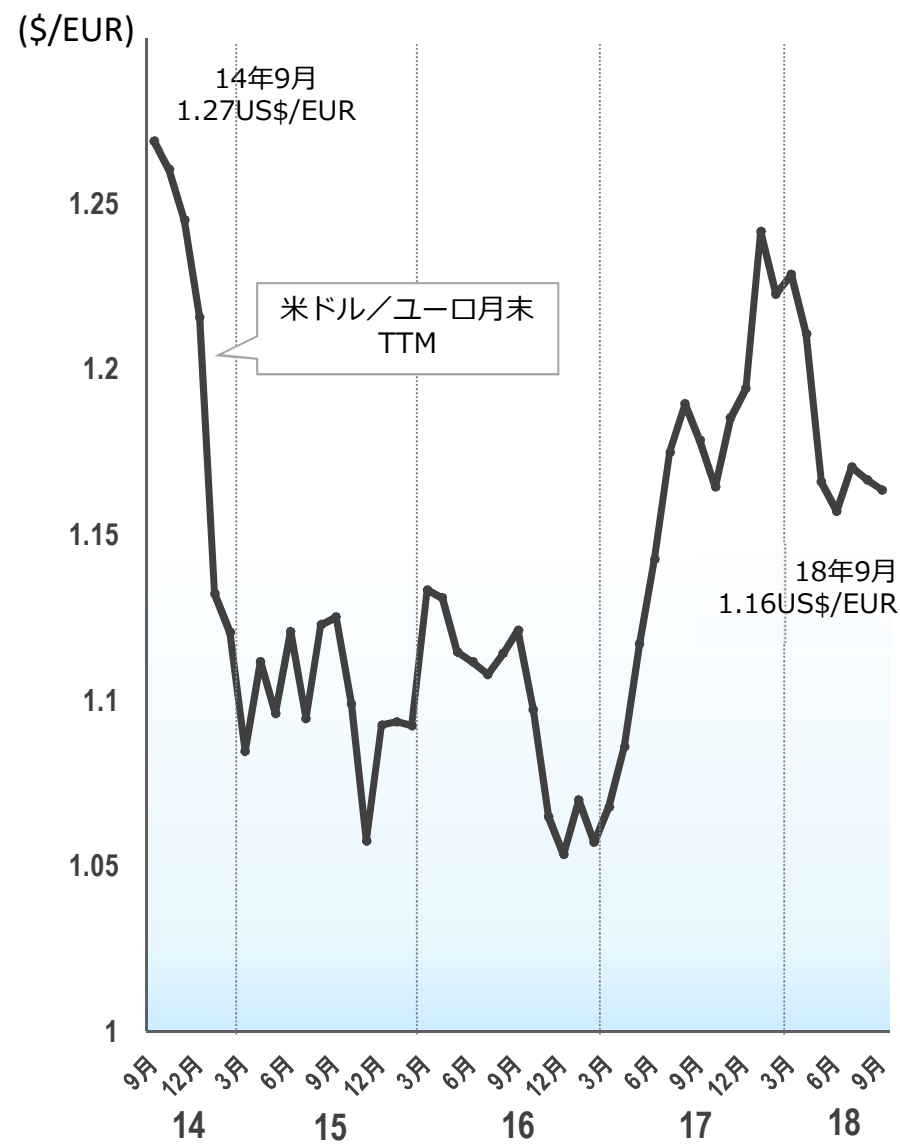
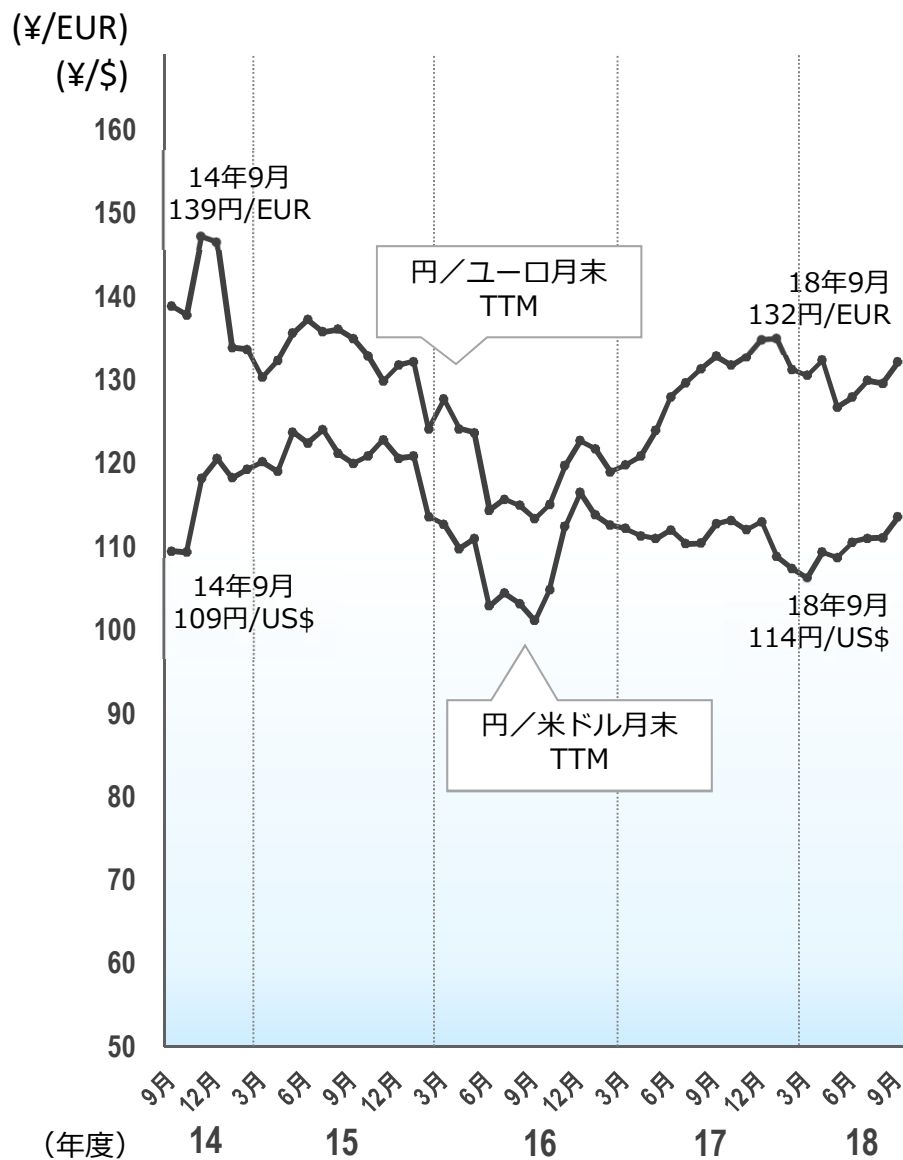
◆ ドバイ原油価格推移



◆ ベンゼン価格推移



◆ 為替レート推移 (円/米ドル、円/ユーロ、米ドル/ユーロ)



## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	17年度					18年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	74	75	88	69	307	87	87
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	28	28	30	22	109	26	25
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	9	9	9	5	31	5	4
ベニロン®	重症感染症治療剤	13	13	14	11	51	13	13
ムコソルバン®	去痰剤	13	12	15	12	51	10	10
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 神経内分泌腫瘍治療剤	4	6	8	7	25	8	9
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	5	4	18	5	5
ラキシベロン®	緩下剤	4	5	5	3	17	4	3
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	4	2	14	3	2
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3

\*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

\*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2018年9月末現在)

\* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階			
	Phase II	Phase III	承認申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域	KTP-001	ITM-058 NT 201		
呼吸器 領域	PTR-36			
代謝・循環器 領域	TCF-12 TMX-049 TMX-049DN TMX-67HK*1	ITM-014T	STM-279	TMX-67 (中国)*2
その他		GGs-MPA GGs-ON	GGs-CIDP*3	

\*1 2018年7月フェブリク®の痛風、高尿酸血症の小児患者への適応拡大に向けた第Ⅱ相試験に着手

\*2 2018年9月に中国で「痛風患者における高尿酸血症治療」に対する適応の承認を取得

\*3 2018年9月に製造販売承認申請を実施

## ◆ 新規開発医薬品 (2018年9月末現在)

## 【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能である。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2018年9月承認取得

## 【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2018年9月承認申請
STM-279	ADA (アデニン・デアミンナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英リーディアント社 2018年6月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2018年9月末現在)  
【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201	A1型ボツリヌス毒素活性本体/上肢・下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢・下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加)

## ◆ 新規開発医薬品 (2018年9月末現在)

## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TCF-12	慢性腎臓病	繊維状吸着炭であり、尿毒素に対する高い吸着能力から、慢性腎臓病（進行性）における尿毒症症状の改善及び末期腎不全（ESRD）発症の遅延、並びに用量低減による服薬アドヒアランスの向上が期待される。	カプセル剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

## ◆ 新規開発医薬品 (2018年9月末現在)

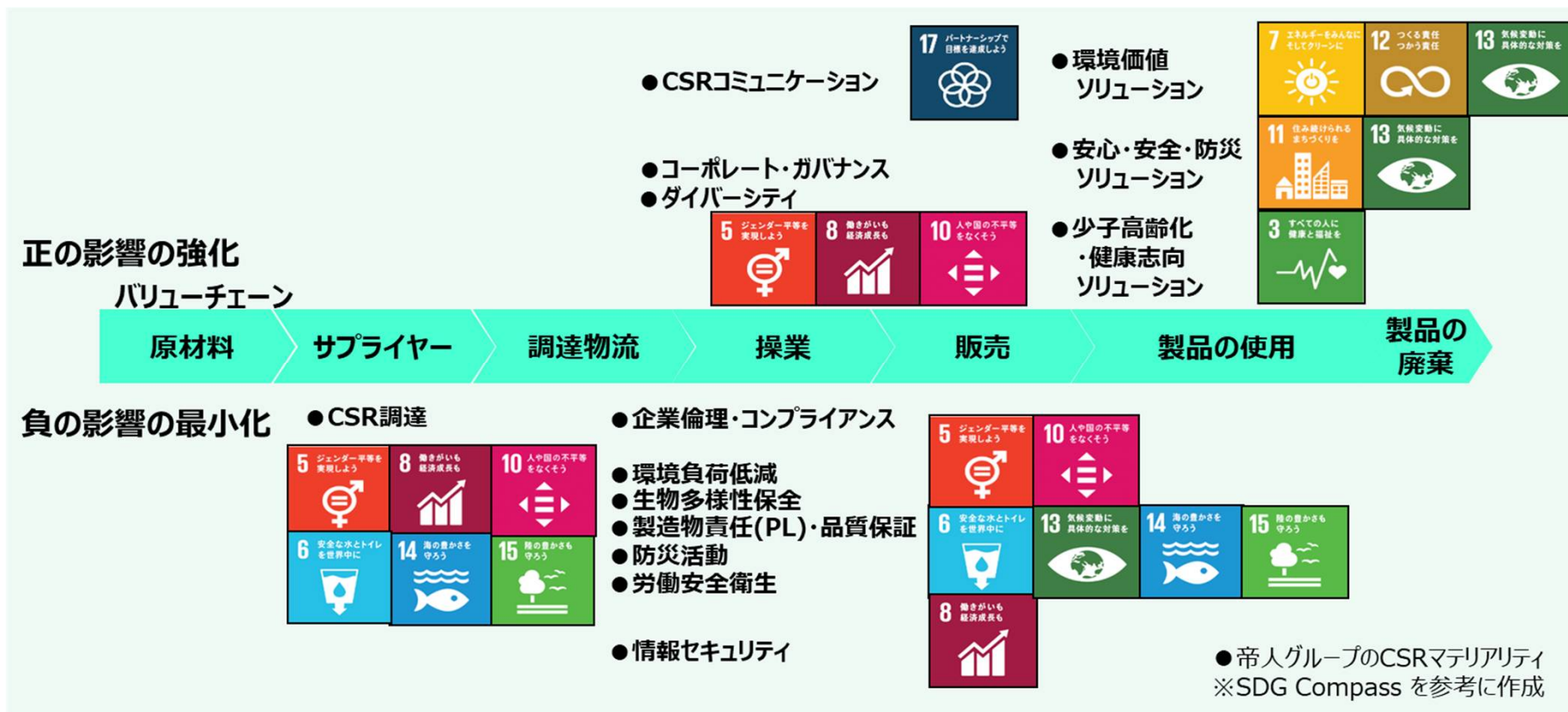
## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67HK (フェブキソスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク <sup>®</sup> の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品



非財務情報
帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます



非財務情報 帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

## SDGsに向けた帝人グループの取り組み

### ＜重点領域と製品・サービス＞

<b>環境価値 ソリューション</b>	<b>安心・安全・防災 ソリューション</b>	<b>少子高齢化・ 健康志向 ソリューション</b>
		
マルチマテリアルによる軽量化素材・部材	超軽量天井材「かるてん」	「心・血管修復パッチ」(開発中)



### ＜トピックス＞



#### 「海洋プラスチック問題」への対応

帝人グループは「未来の社会を支える会社」になることを目指し、環境・安全・健康に貢献するソリューションを提供する企業として、日本プラスチック工業連盟の趣旨に賛同し、「プラスチック海洋ごみ問題解決に向けた宣言書」に署名するとともに、業界とも連携して対応できるように、化学業界5団体が設立した「海洋プラスチック問題対応協議会」に加入しました。

## GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



## ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定

（経済産業省と東京証券取引所との共同主催）



***TEIJIN***

*Human Chemistry, Human Solutions*